

愛媛県松山市

中心市街地活性化基本計画

【3期計画：令和2年11月～令和8年3月】

・愛媛県の県庁所在地である松山市は、四国地方で最大の人口を擁す中核市である。松山城を中心に発展し、道後温泉や俳人正岡子規・文豪夏目漱石のゆかりの地として知られる「いで湯と文学の街」でもある。

・人口 約50万9千人(R2.1.1時点推計人口)、面積約429km²

【前期計画(平成26年11月～令和2年10月)の概要】

前期計画による成果と総括について記載

- 長年の懸念であった「旧ラフォーレ原宿・松山」跡地に新たな複合商業ビルが開業し、周辺の地価は上昇、歩行者通行量も増加した。
- 予想を上回る人口減少や事業延期等により居住人口は減少した。

【中心市街地の課題等】

○来街者の回遊性の向上

賑わい具合に差があることから、駅前広場整備や再開発事業等によって新たな賑わいスポットの整備・充実を図り、回遊性向上に取り組む。

○観光コンテンツの充実

旅行市場へのプロモーション・松山市のPRにより国内外から誘客に取り組むほか、観光資源の磨き上げにより観光客の満足度向上を図る。

○高質で豊かな居住環境の形成

自然減(死亡)に加え、ここ数年は社会減(転出)によって人口が減少していることから、土地区画整理事業や再開発事業等により、都心ならではの高質で豊かな居住環境の形成に取り組む。

【目指す中心市街地の都市像】

職・住・遊の近接で豊かな生活が実現されたまち

【前期計画目標】

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値 ※()は目標値の達成見込
訪れたい都心としての機能強化	中央商店街の歩行者通行量(※1)	127.9千人(H25)	170.6千人(R2)	146.3千人(R1:未達成)
都市型観光地としての魅力向上	中心市街地内の観光施設入込客数	1,710千人(H25)	1,810千人(R2)	1,845千人(R1:達成)
安心して住み続けられる豊かな生活環境の充実	中心市街地内の居住人口	18,091人(H25)	18,600人(R2)	18,033人(R1:未達成)

※1 11月の日曜日8地点の合計、午前10時から午後8時まで(10時間)

【新計画目標】

目標	目標指標	基準値	目標値
来街者の回遊性向上による賑わい創出	中央商店街の歩行者通行量(※1)	48.7千人(R1)	50.3千人(R7)
観光コンテンツの充実による満足度の向上	観光施設利用者数(※2)	1,845千人(R1)	1,974千人(R7)
高質で豊かな居住環境の形成によるコンパクトシティの推進	居住人口の社会増減数(※3)	308人(H26～R1)	561人(R2～R7)

※1 平日と休日(各1日)3地点の合計、午後0時から午後4時まで(4時間)

※2 市有観光5施設[松山城天守閣、道後温泉(本館・椿の湯・飛鳥乃湯泉)、子規記念博物館、坂の上の雲ミュージアム、二之丸史跡庭園]の年間入場者合計

※3 計画区域に転入した人口から区域外に転出した人口を差し引いた数

来街者の回遊性向上による賑わい創出

【主要事業】

- ・市駅前広場整備事業
- ・商店街空洞化対策事業・あきんど事業
- ・湊町三丁目C街区地区第一種市街地再開発事業など

観光コンテンツの充実による満足度の向上

【主要事業】

- ・瀬戸内・松山観光ビジネス戦略事業
- ・クルーズ船誘致・受入推進事業
- ・道後温泉本館保存修理工事を活用した観光資源化事業

など

高質で豊かな居住環境の形成によるコンパクトシティの推進

【主要事業】

- ・松山駅周辺土地区画整理事業・松山駅周辺まちづくり事業
- ・湊町三丁目C街区地区第一種市街地再開発事業(再掲)
- ・一番町一丁目・歩行町一丁目地区第一種市街地再開発事業

など

